

【スタディグループ最終報告】

CSR実践の現状と将来

—社会関連会計の視点から—

研究代表 湯 田 雅 夫

本スタディグループ研究は、構成員20名により2年間研究活動を続けてきた。スタディグループ研究の研究構成員、研究テーマ、研究目的、研究会の実施は下記のとおりである。

1 研究構成員

東健太郎（立命館大学）、飯野幸江（嘉悦大学）、石崎忠司（松陰大学）、
石津寿恵（明治大学）、上田俊昭（明星大学）、大島正克（亜細亜大学）、
黒川保美（専修大学）、上妻義直（上智大学）、高瀬智章（広島国際大学）、
長岡 正（札幌学院大学）、宮崎修行（国際基督教大学）、村井秀樹（日本大学）、
柳田 仁（諏訪東京理科大学）、山口桂子（秀明大学）、吉田武史（横浜商科大学）、
湯田雅夫（獨協大学）、汪浩（獨協大学院生）、堀江美保（サステナビリティ会計事務所、上智
大学院生）、大坪史治（和光大学）（幹事）、松本 徹（専修大学院生）（幹事）

2 研究テーマ

「CSR実践の現状と将来—社会関連会計の視点から—」

3 研究目的

CSRは、時代によって基本的な捉え方が異なる。また、国や地域、さらには個々の企業によってもその捉え方は異なる。本スタディグループ研究は、こうしたCSRの時代的変容と多様性に対して、歴史、理論、経営、会計、企業実践、情報開示、制度、国際的動向など、多面的な視点から整理をおこない、CSR実践の現状と将来を社会関連会計の視点から明らかにすることを第一の目的とした。

各研究員の専門性を活かしつつ、グループ研究の分業の強みを活用して、膨大な文献整理と多岐にわたるアプローチから考察し、先行研究にはない特色をだすよう努めた。

4 研究会の実施

第1回研究会（2011年11月19日、専修大学神田校舎7号館）

- ・研究代表者の決定
- ・研究の方向性と内容の検討

第2回研究会（2012年1月13日，専修大学神田校舎7号館）

- ・各研究員の希望テーマ概要の発表
- ・スタディグループのメインテーマについて

第3回研究会（2012年3月16日，専修大学神田校舎7号館）

- ・研究会メインテーマの決定
- ・希望テーマのグルーピング作業と研究会の方向性の検討

第4回研究会（2012年8月10日，専修大学神田校舎7号館）

- ・講演：廣瀬忠一郎先生「フランス企業における労使関係と経営管理—平常時と非常時の『労働・人権CSR』の視座より—」

第5回研究会（2012年10月19日，専修大学神田校舎7号館）

- ・希望テーマのグルーピングの確認と調整
- ・全国大会中間発表打ち合わせと今後の研究計画について

第6回研究会（2013年3月23日，専修大学神田校舎7号館）

- ・最終報告書の執筆要領を確認
- ・学会からの助成金に関連して

第7回研究会（2013年10月11日，専修大学神田校舎7号館）

- ・講演：櫻井克彦先生「CSR経営についての一考察」

5 研究のグルーピング

4つのグルーピングにもとづいて，メインテーマの充実と統一を可能な限り図った。

G1：CSRの歴史・定義（米国，英国，独逸，仏蘭西，中国，日本）

G2：CSR情報の現状（米国，英国，独逸，仏蘭西，中国，日本）

G3：CSR情報に対する各国の動向，国際機関の動向，CSR情報の課題

G4：先行研究・文献・資料（全員で分担）

当初20名の構成員全員による研究報告を構想していたが，学究活動の多忙な先生方から原稿締切日に間に合わない旨申し出があり，飯野幸江先生，大島正克先生，高瀬智章先生，村井秀樹先生，山口桂子先生，汪浩さんからご報告をいただくことができなかった。最終報告書は，これら6名の貴重な戦力を失ったことで，当初の構想を実現できなかった不備の箇所が多数存在する。

構成員の中から，今後もさらなる課題解決に向け，研究会を継続していきたいとのご提案があった。今回のご報告はその研究途上のささやかな成果物である。

最終報告書の目次

- 1章 CSR評価の要件
- 2章 サステナビリティレポートにおける開示情報の有用性評価
- 3章 CSRガイドライン・ガイダンスと企業実践
- 4章 アジア新興国におけるCSR報告の制度化
- 5章 フランスのCSRと国際的動向
- 6章 企業寄付－寄附金控除団体に関する情報開示拡充の必要性－
- 7章 CSR情報の開示とその有用性の向上－ステークホルダーへの情緒的アピールとCSR情報開示－
- 8章 環境情報開示の動機に関する実証的研究（文献レビュー）
- 9章 自動車産業におけるCSR経営
- 10章 ソーシャルコストの計算と開示－福島原発事故を中心として－
- 11章 我が国企業におけるCSR経営会計の現状と課題
- 12章 CSRと物流
- 13章 CSRと制度会計
- 14章 CSRと社会関連会計の過去・現在ならびに代表的研究者の位置づけ
- 15章 持続可能な企業経営を実践する企業の現状